

7月1日(木) 放送 **「テーマ 星・空」****空の名前**

高橋 健司／著

光琳社 1992年1月発行(新装版 角川書店 1999年12月発行)  
2階一般開架図書(請求記号 451)

夏といえば、真っ青な空に真っ白な入道雲が印象的ですが、忙しい毎日に空を見上げる機会が少なくなっていないですか。

そんな方にお勧めしたいのが『空の名前』です。

空の雲をはじめ、雨や雪などの美しい自然を写した写真に、その写真からイメージされる言葉や詩歌が添えられています。

どのページから読み始めても楽しめるので、お休み前のリラックスや、仕事の合間のリフレッシュにいかがでしょうか。

写真に添えられた文には俳句や和歌が引用されていてイメージが膨らみます。

『空の名前』を読んだ後には、本物の空を見上げる楽しみが増えそうです。

**宇宙がわかる 星空が好きなあなたのための、この宇宙と私たちを知る宇宙論入門**

石坂 千春／著

技術評論社 2009年4月発行  
2階一般開架図書(請求記号 443.9)

星空に興味を持っている人へ、宇宙について噛み砕いて解説する入門的な一冊です。星空の観測法から、宇宙の構造、宇宙の歴史、星の一生、そして最新の宇宙研究まで、星空はきれいだけど、実際はどういう風になっているんだろうという好奇心をくすぐる一冊です。

**星空を見上げて365日 一日一話の星空案内**

藤井 旭／著

誠文堂新光社 2007年10月発行  
2階一般開架図書(請求記号 443.8)

星座(いま一般的に用いられる星座から、古より伝わる地方特有の星座まで)や、星雲、流れ星に天文に関する怪現象まで、丸1年分365日の星空についてやさしく紹介。

写真やイラストを豊富に用い、星にまつわる言い伝えや神話なども盛り込むなど、この本を読んでも、毎日星空を見上げたくなくなるのではないのでしょうか。

7月8日(木)放送 **「テーマ クジラとイルカ」**

イルカ 生態、六感、人との関わり

村山 司／著

中央公論社 2009年 8月発行  
2階新書コーナー (請求記号 S489.6)

イルカについて科学的に、また、公平な立場で書かれた本です。イルカが「賢い」ということは、広く言われているところですが、どうしてそういうことが言われるのかも紹介しています。まず、脳が大きくそのシワが多いということもよく言われることですが、イルカの賢さを示すこととして、その社会的行動をあげています。イルカは「おとり」を使ったり、「かけひき」をしたり、「同盟」をすることもありますが、イルカはなかなか戦略家ですね。また、最も知的な側面を出しているところは、「遊ぶ」ということです。めずらしい人間が海の中に入ってきたら、からかって遊んだりします。水族館などで、新人だとわかると、イルカはからかって言うことを聞かないこともあるそうです。それから、知性の本質でもある学習能力が高いことがあげられます。イルカは「勉強すれば頭が良くなる」そうです。これで、もし、イルカが冗談を言うようでしたら、相当、頭が良いことになりますね。

クジラ・ウォッチングガイドブック

水口 博也／著

TBS ブリタニカ 2002年 11月発行  
2階一般開架図書 (請求記号 489.6)

世界中のホエール・ウォッチングのポイントを案内した本です。日本からは、北海道の噴火湾、小笠原諸島、熊野灘、慶良間諸島、そして、高知県から大方が紹介されています。大方は高い確率でクジラを見ることができる世界屈指のポイントです。土佐湾で見ることのできるニタリクジラは、回遊ことをしないことで知られています。普通、クジラは世界の海を回遊するのですが、土佐湾のクジラは住み着いているものも多いのです。よほどお気に入りの場所なのでしょう。

クジラの超能力 見てわかるクジラ百科

水口 博也／著

講談社 2006年 6月発行  
1階子ども室読書室 (請求記号 489)

写真と図が豊富な本で、子どもだけではなく、大人でも十分読みごたえがあります。クジラの体や種類の説明のほかに、クジラがどのような暮らしをしているか紹介しています。ザトウクジラが協力して漁をする話、死んだクジラを運び続ける親クジラの話など、クジラが高い知能を持っていることうかがわせる行動も紹介されています。